

ご存じですか？ 太宰府市の姉妹都市・友好都市

問い合わせ 国際・交流課(☎内線482)



昔からのご縁があるんだね

本市は、文化・スポーツ・教育・観光・防災などの分野で友好交流を行うため、国外1つ国内3つの都市と姉妹都市・友好都市の協定を結んで提携しています。

※本市では、国外の都市を「姉妹都市」、国内の都市を「友好都市」と呼んでいます。

※「承継締結」は、過去に協定を結んでいたものの、合併などの理由で再度結び直したものです。

- ・大韓民国扶餘邑→大韓民国扶餘郡
- ・大分県耶馬溪町→大分県中津市



【扶餘郡(大韓民国)】平成24年4月8日姉妹都市承継締結

韓国西部、忠清南道の郡で、錦江流域の自然に恵まれた農業が盛んな静かなまちです。百済時代の遺跡「百済歴史遺跡地区」はユネスコの世界遺産に登録されています。

～締結の経緯～

扶餘は百済王朝の都があったところ。白村江の戦い(663年)で日本・百済連合軍が敗退した後、襲来に備え大野城や水城などを築造した際、工事を指導したのが百済から派遣された技師たちと言われています。

太宰府天満宮文化研究所と扶餘文化院の研究交流をきっかけに、昭和53年に扶餘邑と姉妹都市協定を締結しました。その後、平成24年の太宰府市市制施行30周年にあわせて、姉妹都市関係を扶餘郡へと承継しました。

～これまでの主な交流～

- ・小中学校の姉妹校交流
- ・文化財保存活用の意見交換
- ・市民訪問団の派遣 など



大韓民国3大文化祭の一つ「百済文化祭」▶

【奈良市(奈良県)】平成14年6月27日友好都市締結

奈良時代に平城京が置かれた歴史あるまちであり、国内外から観光客が訪れる国際観光文化都市です。東大寺や平城宮跡などはユネスコの世界遺産に登録されています。

～締結の経緯～

約1300年前の奈良時代、大陸との窓口としての役割があった大宰府から、多くの大陸文化が奈良の平城京にもたらされました。また、奈良の東大寺戒壇院とともに天下の三戒壇の一つが筑紫の観世音寺に置かれ、筑前国の国分寺として筑前国分寺が建立されました。

歴史的な深いつながりとともに、現代では両市とも大都市近くの観光都市・住宅都市であり、史跡地・文化財の保存活用などの共通点が多いことから、「東大寺サミット」が奈良市で開催されたのを機に友好都市協定を締結しました。

～これまでの主な交流～

- ・太宰府市立中学校の修学旅行
- ・市民訪問団の派遣
- ・物産フェアなどへの参画 など



平城京大極殿(再建)▶

【多賀城市(宮城県)】平成17年11月21日友好都市締結

太平洋岸に位置し、周辺には仙台市や日本三景の松島などがあります。東日本大震災からの復興とともに、「東北の文化交流拠点」として、歴史、景観、文化を生かしたまちづくりを進めています。

～締結の経緯～

古代の大宰府と多賀城は、奈良時代に朝廷の出先機関「遠の朝廷」として置かれ、西海道(九州)と陸奥・出羽(東北)地域を治める役所、外交・防衛の拠点として、ほぼ同時期に機能していました。

約1300年の昔から深い縁で結ばれており、現代も人口規模や都市機能などがよく似ている両市の交流をさらに深めていくため、九州国立博物館開館を機に友好都市協定を締結しました。

～これまでの主な交流～

- ・中学校「ふるさと夢プロジェクト」
- ・市民・行政などの震災復興支援
- ・市民訪問団の派遣 など



多賀城跡(政庁跡)▶

【中津市(大分県)】平成26年11月23日友好都市承継締結

国指定名勝・耶馬溪の紅葉や山国川の豊かな自然に恵まれた、城下町の歴史情緒あふれる美しいまちです。福澤諭吉をはじめ多数の優れた人材を輩出した文化都市としても知られます。

～締結の経緯～

中津市には、菅原道真公が初めて踏んだ九州の地と言われる犬丸天満宮があり、中津城主・黒田官兵衛が晩年福岡に移った際、太宰府天満宮の再興に尽力するなど、歴史的な縁も深い地です。

昭和61年の耶馬溪ダム記念公園の建設に太宰府市の造園業者が従事したことをきっかけに官民の交流が生まれ、平成4年に旧耶馬溪町と友好都市となりました。旧耶馬溪町と中津市の合併後も民間の交流は続いており、それまでの友好関係を継承し、あらためて中津市と友好都市協定を締結しました。

～これまでの主な交流～

- ・中津市での「木うそ」原木切出し
- ・市内団体のスポーツ交流
- ・中津祇園への参画 など



耶馬溪(一目八景)▶